

社寺名 法眼寺 (大洲市新谷乙1068)

奉納者 いわたせいきん 岩田清謹

奉納年 寛政6年(1794年)

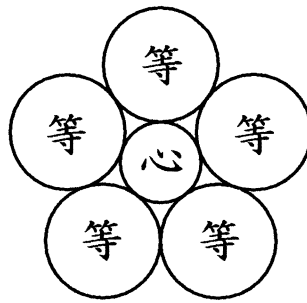
大洞家紋星梅鉢数理

新谷藩士岩田清謹源助が三十一歳の時、従兄弟の大洞牧太の家に宝として残した和算書である。大洞家の菩提寺である方眼寺所蔵の和紙算額を復元したものである。

大洞家紋有如圖五等圓内容心圓問

其定率幾何

率乃謂依等圓徑而得心圓徑
依心圓徑而得等圓徑之法



答曰依左術得定率

七分〇一三〇一六有奇

術云列五個開平方加一個自之為
實内減一個開平方見商倍之為法実
如法一而得内減一個得定率合問

寛政六甲寅歳冬十一月

岩田清謹考之

解 説

岩田清謹が従兄弟の大洞家の家紋、星梅鉢の等圓と心圓の直径の比が一定であることを見抜き、その解を算額題として和紙に書いている。

大洞家では、それを家宝として菩提寺である法眼寺に奉納されていた。

それを平成12年に愛媛和算研究会が発足したのを記念して復元奉納した。

岩田清謹は関流和算家寺井政道の門人で、和算研究のため一生独身で過ごし、その墓は法眼寺境内にある。